

日本経済新聞「景気指標」のデータをチェックしよう



国の小売り売上高が発表になったが、その折も「現地時間で昨日発表されるなんて知らなかったんだ」前年比でマイナス1.4%もの大幅な減少になったらしい。「米国のGDPの7割を占める米経済の最大の牽引力がこれだけ下落したんだから、NY株が733ドルも急落したのも仕方がないのかな」という感じで知ったのではないだろうか。

冒頭で述べた「専門家と素人の日経新聞の読み方の本質的な差」はここにあると思うのだ。

つまり専門家は、経済、金融、マーケットに重大な影響を与えない経済データ等の発表に際しては、それを前もって予見したうえで、ある程度の予想データをすでに懐に抱えているのだ。一方、いわゆる素人は「いつ、どこで、どんなデータが発表されるのか」という将来についてのイメージをまったく持たずに、ただ経済データを事後的に知るだけなのだ。

言い換えれば、専門家は「○月○日に発表される△△は××%程度だと予想される↓予想以下の×△%だった。これでは株は下がらざるを得ないだろう。予想値を下回った原因は○×だったんだな」という思考プロセスをたどる。しかし、素人は「あ、×△%だったので株は下がったんだ」というように、プロセスのごく一部に関与するだけなのだ。

**関係者の予想データなどをあらかじめ入手するには...**

こうした方法論は、「生きた経済」をダイナミックな営みとしてウォッチし続けていくためには、

「日経新聞を読みこなしたい」のであれば、「経済の専門家であるM総合研究所のUさんやDI生命経済研究所のNさん、N総研のRさんと、シロウトである自分との日経新聞の読み方の差はどこにありや」と問うことには大いに意味があると思う。

私が再度「日経新聞の読み方」「経済情報の読みこなし術」という類の本を書くなら、どこかの章の冒頭は以上のような叙述から始めたい。

金融経済データは大別すると2種類ある。1つは瞬時にリアルタイムで示される多くのマーケットデータ。

例えばこの原稿を書いている今(10月23日)、パソコンのすぐ脇にある携帯電話の画面には「日経平均株価23日 10:22 8417.25 1527.44」とあり「円/ドル23日 10:02 97.55 11.74」とある。152分遅れではあるが、まあリアルタイムだ。

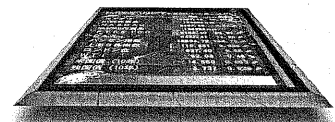
これに対して多くのマクロ経済データや景気関連データは、相当

程度のタイムラグをもって我々は知ることになる。日本の場合、GDPデータであれば第一次速報値でさえ2カ月遅れ、全国消費者物価指数であれば1カ月遅れ、法人企業の設備投資や営業利益状況が財務省から発表されるのは3カ月遅れだ。

ところで、昨今の世界的な金融恐慌、世界経済の大混乱に関する常套句は「実体経済への影響が相当深刻な状況であることが次から次へと明らかになってきました」である。それは例えば、米国で言えば小売り売上高であり、農業部門を除く雇用者数であり、消費者信頼感指数である。

それらのデータが発表されるごとに、事前予想値との比較が行われ、その結果に一喜一憂。株価や為替、長期金利などがそれに反応する。そして、それらはことごとく、多くの投資信託の基準価額を変えていき、その投資信託を買っている受益者の懐を直撃する。何を隠そう、その投資信託を売ったのは、ほかならぬ「あなた」なのである。

角川総一の



マーケット・リテラシー

金融市場を読む、解く、話す力を養う

File.035

日経新聞の読み方の専門家と素人の本質的な差

さて、多くの読者は、1カ月、数カ月後に発表されるこれらの重要な景気関連データを知るとき「前もって知らなかったんだ」昨日アメリカの雇用統計の1環として雇用者数が発表されたが、なんと15万9000人も減少したんだ」という知り方をするのではないかと思う。

あるいは、10月15日に9月の米

経済の専門家は経済データ等をどんなふうに見ているか?

# 事前に予想値を押さえることで 経済データの見方は大きく変わる

MARKET LITERACY

極めて重要度が高いスキルだと思ふ。ではどうすればこのスキルを身につけられるか? また、これから明らかになるはずの重要な経済関連データの発表時期、さらには関係者が予想する最大公約的な値などをあらかじめ知るためにはどうすればいいか?

以下、いくつかのヒントを述べておくことにする。

①日本経済新聞の月曜版に掲載される「今週の予定」欄を切り抜き、注目される経済データ等に赤や青でラインを引いておく

この種の経済データ発表は「経済」「企業」のジャンルで掲載されるし、重要な企業決算は「決算」で示される。

②調査機関、経済研究所などが定期的に発表するこれからの経済データ発表予定記事や表を、インターネットで閲覧あるいはプリントアウトする

例えば、日本経済新聞社の「NKKKEI NET」では「マネー」↓「国内株」から「週間予定」を見ることが出来る。

また民間経済研究所では、みずほ総合研究所が毎週末に「主要な経済指標の発表予定と予測」を発表。この後半には「来週のダイアリー」と題してこれから発表される経済指標とその予測値、前回、前々回のデータが記されている。さらには「ここまで集めたか」と思われるのが、FX(為替証拠金取引)をメインに営業しているひまわり証券が提供する「経済カレンダー(マーケット情報カレンダー(週間))」だ。「FXオン・ザ・ウェブ」の「マーケット情報」↓「経済カレンダー」でただり着くこのページには、日米欧だけでなく、世界各国の経済データが1週間以上わたって、日付や時間、予想値まで含めて掲載されている。

初心者であれば、これらの発表予定データのうち、当面は日本経済新聞の月曜版に掲載される「景気指標」に含まれているデータの発表予定だけをチェックすることからスタートすると思う。

最初からやたらとチェックポイントを多く設けると、長続きしないのは目に見えているからだ。